

ユニバーサル便り

～ユニバーサル農業の実践を通じた地域の中の農福連携～

発行：風の森ファーム&ユニバーサル農業研究会@ふくろい

1. ワークショップ開催！

風の森ファームの活動も2年目に入って、サポート・メンバーも少しずつ増えてきました。そこで、今後の事業展開をどう考えるか、現状を分析して何をするかを検討するためにワークショップ（勉強会）を開きました。主なテーマとしては「どう稼ぐか」という点に着目して、「6次産業化の取り組み」についても検討しました。これまでの活動を振り返りつつ、今後の方向性を考える上で有意義な話し合いになりました。今回はコロナ感染状況を考慮して、Zoomを用いたリモート参加形式で行いました。

2. 藍の栽培と藍染め

藍染めは、販売のための製品作り（ハンカチ・スカーフ・Tシャツ・エコバッグ等）によって、ワークショップの主なテーマだった「稼ぐこと」や「6次産業化」につながるような活動として考えています。

新しく開所した風里にて、藍染め体験会を7月に実施しました。今回は初めての試みとして、参加者から参加費として1,000円と材料費実費をいただきました。体験会では、藍染めだけでなく藍の栽培や葉の収穫、すくも作りや藍染めの各工程にも関心を持ってもらうように努めました。



体験会の藍染め作品



プランターでの藍の栽培



収穫を待つシャインマスカット

3. ブドウの収穫と販売

風の森ファームのブドウが今年もたわわに実ってきています。今年も枝の剪定や果実の摘果・摘粒を念入りに行って、丹精込めて栽培をしてきたので、去年以上に形も良く、甘くておいしいブドウができました。去年に続いて販売する予定ですが、今年はプラスチック・バックに加えて、房売りもする予定です。

房売り用の入れ物として、新聞袋作りの講習会も行い、準備万端です。みんなで去年以上の売り上げになるように期待しています。



ブドウ販売用の新聞袋作り

4. 原木シイタケの栽培

今年2月に菌打ち後、平積みでの仮伏せ状態だった原木シイタケですが、7月末に本伏せ（鳥居伏せ・合掌伏せ）をしました。本伏せ後は風通しがよく、直射日光が当たらないようにする必要がありますので、寒冷紗で日除けをして涼しくなるようにしています。

「本伏せ」とは、寒冷紗で覆って平積みした「仮伏せ」によって菌が原木に活着した状態になったものを、下の写真のようにホダ木を組んで風通しをよくしたりして、菌を材内へ伸ばしてやる作業のこと。



仮伏せのシイタケ



鳥居伏せの作業



合掌伏せ

また、8月末から「里山応援団木こり講座」に有志が参加します。実際にチェーンソーの使い方や、里山での木の切り方を月1回の実習で学んでいきます。地域の里山管理とシイタケ栽培をつなげていく、重要な一歩になると思います。

5. 浜松学院大学の学生さん受入れ

袋井市協働まちづくりセンター「ふらっと」からの紹介で、浜松学院大学3年笹川伊織さんが袋井市内の市民活動の職場体験を希望され、8日間の受け入れをしました。現場作業としてブドウの摘粒作業と房の数量調査、農業技術士のアグリデザインカンパニー山下雄氏から農業における6次産業化のレクチャーを受講してもらい、風の森ファームの事業構想提案を頂きました。商品開発として、摘粒作業で発生する廃棄となる粒を活用した練り香水の商品開発を提案。遠州三山とのコラボレーション、コストパフォーマンス、商品のネーミング等、若者目線での新商品化の企画がありました。

藍染めの手順：

藍染めには、新鮮な藍の葉をそのまま使って染める「生葉染め」と、藍の葉を乾燥・発酵させた「すくも」やインディゴ還元剤を使う「建て染め」があります。

- ①すくも作り：「建て染め」ではすくも作りが非常に重要な工程で、藍の発酵を促進させるために水と温度の管理が大切です。
- ②すくもの下準備：すくもを水に浸して、かたまりを良くほぐす。
- ③藍液作り：すくもとインディゴ還元剤をお湯と混ぜて藍液を調整する。
- ④染色：水に浸しておいた布などを藍液に5分間つける→取り出して10分間干す（空気酸化）→再度藍液に5分間つける（この工程を2~4回程度繰り返す）
- ⑤酸処理：良く水洗いした後、酢酸液に5分間つける→水洗いして干す→全工程終了。



すくも作り



染め物の下準備



藍液に漬ける



染めた物を干す



染めたスカーフ